森しんいち議会報告

9月定例議会の一般質問において、西東京市内の全公共施設の入口にスタンド型の非接触体温計を設置するように求めました。9月27日（月）早々に田無庁舎および保谷庁舎、エコプラザ入口に設置されました。今後順次その他公共施設にも設置する予定です。

その他、国へ新型コロナウイルス感染症対策（11項目）を求める意見書の提案をしましたが、自民党、公明党の反対多数で否決されました。

小平西地区のおすすめの名所、玉川上水を紹介します。玉川上水はかつて江戸市中へ飲料水を供給していた上水であり、江戸の六上水の一つです。1653年に多摩の羽村から四谷までの高低差92.3メートルの間に全長42.94キロメートルが築かれました。当時は貴重な飲料水の水源だったそうです。

あっ!!鯉がいるネ!

また、一部区間は現在でも東京都水道局の現役の水道施設として活用されています。文豪、太宰治が愛人の山崎富栄と入水心中したことでも知られていますが、その頃はもっと水量が多く流れも速かったようです。

そんな話の後でなんですが、緑に囲まれたこの上水沿いを歩いていると良い気分転換になり、前向きな新しいアイデアが浮かんだりします。長引くコロナ禍で遠くには行きにくいので、休みの日にはおにぎりでも持って、身近なパワースポット、玉川上水を歩いてみてはいかがでしょうか。

〈山田　真吾〉

…細く長～いこの道♪♫…

予算要求

建設国保への補助金獲得にむけて、ハがき要請以外に都議賛同署名に取り組んでいます。都議会議員に建設業界の現状や建設国保制度と補助金確保に対し理解と賛同を求め、東京都に私達の声を届けてもらうための取り組みです。支部でも地元都議に面会し賛同を頂きました。

今月は財務省宛てのハガキです。1シート4枚全てにご記入をよろしくお願いします。

願いよ☆とどけ☆

あなたにとって暮らしって〈番外編〉なんですか？ No.2

「おそらく、一つの内閣を変えるよりも、一つの家のみそ汁の作り方を変えることの方が、ずっとむずかしいにちがいない。」私の心に残っている暮らしについての言葉である。一方、仲間の声で気になる言葉がある。「当たり前の生活をしたいだけだ。家族で朝食をとり、帰って夕食を囲む。」普通の生活とは家族と過ごし趣味などの自由な時を楽しむ暮らしであるのか。

植物は動かず土と共に在り、動物は自然の中で生を育む。人間は自然と対峙し、生活を向上させてきた。そして時代、環境によって暮らし向きは異なる。大正、昭和初期、戦中、戦後、高度経済成長、バブルから現在、時代と共に変容する暮らし。

自然と共にあった地域社会。暑さ、寒さ、雨風ありの厳しい中での日常。四季があり、季節の食べ物、行事、祭りがあった暮らしは個人の有り様だけではなく地域の中で育まれた共同の営みでもあったのではないだろうか。

匠の技

便利の中で失われる手仕事。以前、大工仕事は墨付け、刻み、仕上げ等の作業があり、時間があれば刃を研ぐ風景が見られた。今、目にすることはない。ある人は「大工はいらない。大工で十分だ」と思能をつく。手にしみついた「匠」はどこへ行くのだろうか。

科学技術の進歩は止めることができない。人は豊かな暮らしを求める。手軽で便利な物によって姿を消す物事は、単に物だけでなく、共にあった営みも失われていくことにならないのか。そして食べ物、仕事、人間、自然に対するまなざしを暮らせていかないだろうか。

最後に好きな歌を一つ。「日々の暮らしはいやでもやってくるけど、静かに笑ってしまおう（…）」

深まる春は何もない春です」あなたにとって「暮らし」とはなんですか。

〈伊東　昇〉